

アフガニスタン国立公文書館の概要

国立公文書館 前田 裕美

アフガニスタン国立公文書館の基本データ

【正式国名】アフガニスタン・イスラム共和国 Islamic Public of Afghanistan

【機関】アフガニスタン・イスラム共和国国立公文書館

آرشیف ملی جمهوری اسلامی افغانستان

【設立年】1973年

【本館支部の数】1 (06)

【書架延長】書籍：約 8,000 冊、文書：約 15 万冊 (06)

【職員数】38 名 (06)

1. 設立背景

共和革命により、王制が廃止され、政権が共和制に移行した年の 1973 年に、アフガニスタン国立公文書館が設立した。革命下において、過去と現在の連携の重要性が強調された結果、過去の文化的繁栄に対し多大な評価が与えられるようになっていった。これに伴い、王制下では、保管場所を欠きながらも、移管・収集が行われていた写本および古文書等が、国立公文書館の設立と共に、情報文化省 (Ministry of Information and Culture) により、Yahya 王朝時代の公文書・テープ・書簡・写本、最高裁判所及び解散した国会の関係文書を含め歴史的及び公文書資料の収集が開始された。

2. 建物・組織

国立公文書館は、首都カーブル (正しくはカブールではなくカーブルと発音する) に位置し、建物は 1890 年に宮殿として建設され、その後、一時迎賓館として使用されていた建物の内部を修理したものである。地上 1 階、地下 1 階の 2 階建てで、1 階には展示室が 2 部屋、地下 1 階には書庫が 2 つ配置されている。また、アフガニスタンの国内には、公文書館は同館 1 館があるのみである。1990 年代の内戦下では、公文書館は戦火を免れたが、政権交代が繰返され、保管資料の散出が懸念される状態が続いた。タリバン政権下においては、これらの資料は国家遺産と見なされ保護されていた。所管省庁は、情報文化省であり、館長を含め職員数は 2006 年現在で 38 名である。

資料は「私文書部門」と「公文書部門」に分類され、保存されている。また、組織は、2部門に大別することができ、即ち「歴史的なものを扱う部署」と「マイクロフィルム化して保存する部署」から構成されている。文書のマイクロフィルム化は、職員が行い、過去には、マイクロフィルムからの複写及び閲覧サービスを行っていたが、現在は、マイクロ・リーダーが故障しているため行われていない。



アフガニスタン国立公文書館 建物外観

3. 閲覧

利用者は、展示室のみ見学が可能であり、公文書の閲覧は許可されていない。但し、研究者と学生に限り、資料の閲覧が許可されている。特定の文書に関しては、閲覧・複写・写真撮影の全てに、情報文化省の許可が必要とされる。閲覧者は、1日に5名程度である。

4. 展示

展示室は2部屋あり、内1部屋には写本や複製が展示されている。無料で一般に公開されており、全利用者は展示の見学者も含め1日の来館者数は約200人である。

5. 所蔵資料

資料は書籍が約8,000冊、文書が約15万冊で、最も古い資料は、書籍が西暦9世紀頃に作成されたもので、公文書が、王の署名入りの家族に関する記述が記載されている西暦15世紀のものである。また、貴重資料として、金の印刷が施された400年



アフガニスタン国立公文書館 展示室

から 500 年前のコーランがある。近代公文書資料に関しては、公文書館は各省庁が保管している 40 年を経過した公文書の移管業務を行っている。移管規程に従い、公文書館職員が各省庁に出向き、移管を進めている。



アフガニスタン国立公文書館 書庫

6. 保存・修復

保存修復のための設備や資材はなく、且つ、公文書館職員へのトレーニングが急務である状態にある。また、書庫にある空調システムは作動せず、資料、特に書籍 1200 冊は、常時、白カビ害の潜在的危機の中にあるといえる。多くの書籍はマイクロフィルム化されているが、上述したようにマイクロ・リーダーは故障している。日光による劣化を防ぐという理由により、地下書庫には鍵がかけられており、保管されている歴史的文書のほとんどは公開されていない。

最後に、当研修生が述べた言葉を以下に引用したい：

アフガニスタンは、激動の時代を経ていまして、昔の社会主義政権の時代もあれば、タリバン政権の時代もある。その中で、文書を集めるだけでも、大変な苦勞でした。保存には不十分な部分もあるが、将来の仕事として、それらの資料を収集するということにも力を注いでいきたい。これらの文書には外国に渡ってしまったものもあります。但し、それらの文書ひとつひとつは、我々の文化でもありますし、公文書館の職員の皆様が文化を守ることが愛国心なのだと思います。そういった事を皆さんも次回忘れないでいてくれたら嬉しい。

過去において、現在のアフガニスタンのある地域に興った文明や文化を代表する歴史的資料の保存管理をも行っているアフガニスタン国立公文書館の一職員の言葉ではあるが、この思想に我国の公文書館職員も大いに学ぶべきところがあるのではないかと考える。

参考文献

- ・ 渡邊明義「東京文化財研究所のアフガニスタン文化財保存支援への取り組みの経緯 アフガニスタン文化財保存協力第一次文化庁調査団について」(「アフガニスタンの文化遺産の復興をめざして」叢書[文化財保護制度の研究] 行政独立法人東京文化財研究所 2004年3月10日)
- ・ British Council HP, Afghanistan Cultural Profile -National Archives-
<http://www.culturalprofiles.org.uk/Afghanistan/Units/27.html> (参照 2006-06-29)
- ・ British Council HP, Afghanistan Cultural Profile, Afghanistan Cultural Profile -Archives-
http://www.culturalprofiles.org.uk/Afghanistan/Directories/Afghanistan_Cultural_Profile/-652.html (参照 2006-08-21)
- ・ National Archives of Afghanistan 英文パンフレット、発行年不明
本稿は、国立公文書館業務課修復室におけるアフガニスタン国立公文書館専門職員 2 名に対する資料修復保存研修の期間中(2006年2月6日～同年3月10日)に得た情報等を基にアフガニスタンの国立公文書館の概要を紹介するものである。